

8004 弟と一緒に転んで頭を打ったとたん・・・

弟と一緒に転んで頭を打ったとたん大あわてで、

娘「ママ早く“いちたすいちは”って言って」

私「・・・？ いちたすいちは？」

娘「2, ああよかったです。あほになってないわ」

それから二歳の弟に、

娘「慎吾ちゃん、いちたすいちは？」

弟「・・・」

娘「あかんわ、かわいそうに」

雑誌『ホームキンダー』(天使のことば、より)

[許容訳例]

My small daughter and her brother fell over and got a bang on the head. She came to me in haste.

Daughter: Quick, Mummy, ask me: "what is one plus one?"

Myself:? What's one plus one?

Daughter: Two. Oh, good!—my head isn't hurt.

Next she turns to her two-year-old brother.

Daughter: Shingo—what is one plus one?

Brother:?

Daughter: Oh, poor boy! He's had it!

[翻訳例]

My small daughter and her baby brother fell over together and banged their heads, whereupon she rushed up to me in alarm.

Daughter: Quick, Mummy—ask me what one and one makes!

Myself (puzzled): What does one and one make?

Daughter: Two. Oh, good!—my brain isn't hurt.

Next, she turns to her two-year-old brother.

Daughter: Shingo—what does one and one make?

No reply.

Daughter: Oh dear! Poor thing!

■ 弟と一緒に転んで頭を打ったとたん大あわてで、

娘「ママ早く“いちたすいちは”って言って」(8004)

★この文の主語は「娘」ですから my daughter だけでもいいのですが、五歳から十歳くらいの娘なら my small daughter が普通です。

★「弟」も単に her brother より her baby[small] brother がいいと思います。

★ 「一緒に転んだ」は fell over together が一番ぴったりです。fell down with…は「…をもって [抱えたまま] 倒れた」で、ここでは使えません。また、together with…は「一人ではなく一緒に倒れた」ということを非常に強調する言い方なので、ここでは使えません。なお、辞書には tumble (down; over) が出ていますが、これは「転ぶ」という一回の動作ではなく「転がる」という感じが含まれています。fall to the ground は建物の上から落ちたときとか、脳溢血でとか失神して倒れたというような場合に使うので、ここでは使えません。

★ 「頭を打つ」は get a bang on the head とか band one's head です。

● 時の副詞節の位置と了解情報と未了解情報

「…したとたん」を The moment[minute]…と前に置くことはできません。前に置けるのは、すでに読者が知っていた了解情報と当然知つていいという文脈の場合だけです。たとえば、I went to Mr. Smith. The moment I met him he said angrily, "Why are you such a fool?" (スミス先生のところへ行った。会った途端、先生は「君はどうしてそんな馬鹿なんだ」と怒った。) という場合、前に I went to Mr. Smith. があるので、(The moment) I met him は了解情報です。ですから、The moment…と前に置くことが出来るのです。言い変えると、ここでは伝えたいのは I went to Mr. Smith. he said angrily, "Why are you such a fool?" であって I met him という情報を読者に伝えようとしているのではないです。日本語では了解情報と未了解情報とか情報の比重とか、あまり問題にしませんが、それでも無意識に情報の比重は認識していて、たとえば、「彼が帰ってきたとき、私は小説を読んでいました」と言うときには、その前に彼のこと・帰宅のことなどが話題になっていたと推察できます。したがって、これに対する英語は When he got home, I was reading a novel. でしょう。動作関係は同じですが、私たちは「私が小説を読んでいると [とき] 彼が帰ってきました」とも言います。これは二つの情報を同じ比重で伝えようという無意識の意思のように感じられます。これに相当する英語は I was reading a novel when he got home. でしょう。さらに複雑にするのが、英語の情報素配列です。情報には主語と述語動詞の他に、時(whn)、場所(whr)、様態(hw)などが必要です。言語にはその言語固有の情報素配列がありますが、英語の {単位情報} の「情報素配列」は、基本的には、次のようになります。

{S + 【V】(+whr) (+hw) (+whn)}

{Six fires broke out yesterday} {[and] the fire brigades were kept very busy}.

{昨日は火事が六件も発生し}, {消防隊員は大忙しだった}.

The door opened at exactly one o'clock, and the First Secretary entered.

午後一時ちょうどにドアが開いて一等書記官がはいって來た。

つまり、時の副詞（句・節）は後置するのが基本なのです。したがって、

I was reading a novel when he got home.

私が小説を読んでいると〔とき〕彼が帰ってきました。

は、英文として正常なのです。もう一つ例を加えます。

He went out just as I entered.

私が入った途端に彼は出て行った

この文では、「私が入った」ということを特別知らせようと思っているわけではありません。これは後置される時の副詞、たとえば、I went downtown yesterday.の yesterday と同じで単に「いつか」をいいたいだけです。ところが、Just as I entered, he went out. と言うと、Yesterday I went downtown.（昨日は街に出かけた）と同じように、時を強調することになって、「ぼくが入った途端に彼は出て行った（失礼じゃないか）」という非難の気持ちも含まれるのであります。ただし、"When did he go out?"という単に事実を尋ねる質問に対してであれば、どちらの文でもいいのです。ただ、when…が前置されれば、必ず了解情報なのですが、次の例のように、情報素配列にしたがって「時」(whn)として後置される場合もあります。了解情報であることは冠詞(the earthquake)が示しています。

I was reading a book when the earthquake occurred.（地震が起きたときぼくは本を読んでいた）

I was reading a book when an earthquake occurred.（ぼくが本を読んでいるときに地震が起った）

いずれにせよ、ここでは The moment…, she came to[asked] me in (great) haste[in alarm]. とすることはできません。

ここは「一緒に転ん〔で〕頭を打った〔とたん〕大あわてで…した」のように三つの{単位情報}が順々に「未了解情報」として提示されているわけです。〔で〕は「順次」ですから and でしょう。〔とたん〕（瞬時同時）を未了解情報として提示するには「コンマ+関係副詞」(…, whereupon)を使えばいいでしょう。whereupon は、たとえば、He turned to her, whereupon she burst into tears.（彼が彼女の方を向いたとたん、彼女は泣き出した）のように使います。

★「大あわてで」の後には「ママ、…ていって」と続くので、「大あわてで…と言った」でもよいし、また、「大あわてで」には行動も暗示されるので「大あわてで戻ってきて」とすることもできます。前者の場合は she asked me in (great) haste でしょうし、後者の場合は she came [rushed up] to me in alarm でしょう。

★「ママ」は、小さい子供のようですから mummy でいいと思います。mama は（19世紀には使ったようですが）英語では使いません。

★ 「早く・・・って言って」ですが say quickly とすると「早口で」という意味にもなりますので、ここで一番自然なのは Quick, Mummy でしょう。これは Be quick を略したものです。

★ 「“いちたすいちは”」は (ask me) what one plus one is か、(ask me) what one and one make(s) です。なお、ここは間接話法で書く方がいいと思います。日本文では引用符が使われていますが、"What is one plus one?" と直接話法にすると、母親は娘の言った通りを繰り返さなくてはならなくなります。日本語では直接話法の文が地の文によく使われますが、英語で直接話法というのは、どういう表現で言ったかが関心の中心になります。たとえば、子供が内緒で何かやっていて、内緒でありながら同時に母さんに知らせたいという気持ちになったとき Ask me what I'm doing. といいます。Ask me, "What are you doing?" とは言いません。

■ 私「・・・？ いちたすいちは？」(8004)

★ 私「・・・？」には、二つの注意点があります。まずセリフのト書きで「私「・・・？」」となった場合、決して I にはしません。Myself を使います。それから「・・・？」という使い方は英語にはありません。一番いいのは Myself (puzzled):… でしょう。

★ 「いちたすいちは？」は、娘の言い方を繰り返す必要なないので、What is one plus one? でも What does one and one make? でもよいことになります。

■ 娘「2, ああよかったです。あほになってないわ」(8004)

★ 「ああよかったです」は、子供のセリフなので Oh good! ぐらいでいいと思います。Thank God! は大人のセリフですし、Oh I'm glad! は自分のことではなく人のことを喜ぶ場合が多い表現です。

★ 「あほになってないわ」 My brain isn't hurt. とか My brain [head] is all right. とかです。My brain isn't damaged. も可能ですが、これはよほどませた子供でないかぎり使わないと思います。

■ それから二歳の弟に、

娘「慎吾ちゃん、 いちたすいちは？」(8004)

★ 「それから」は、ここでは「次に」に近いので then ではなく next にします。

★ 「二歳の弟に」ですが、英語ではどうしても動詞を入れます。「弟に言った・尋ねた」として say; ask を使いたいのですが、娘「慎吾ちゃん・・・」となっているので、使うことができません。こういう場合には「二歳の弟に向かって」でしょう。turn to を使いましょう。なお、ドラマのセリフの形をとっているので、この部分はト書きとすると現在時制を使うことができます。

★ 「慎吾ちゃん、 いちたすいちは？」は Shingo—What does one and one make? でいいでしょう。

■ 弟「・・・」(8004)

★ 「・・・」は英語的には No reply です。

■娘「あかんわ、かわいそうに」(8004)

★「あかんわ」は、女の子のセリフとしては Oh dear! が一番いいと思います。英語には男性の言葉とか女性の言葉とかの区別はあまりないのでですが、Oh dear! は女性専用です。

★「かわいそうに」は Poor (little) boy! でもいいですが、こういう時には Poor thing! もよく使われます。